



患者さまと市立小樽第二病院をつなぐ広報誌

しんらい

信 頼

第7号
2009年
5月

平成21年5月20日 第1版 市立小樽第二病院広報委員会 発行責任者：馬淵正二

6月1日より病院名を変更します

新名称 『小樽市立脳・循環器・こころの医療センター』



新たな出発

『小樽市立脳・循環器・こころの医療センター』として

昭和49年に四つの病院を統合して誕生した市立小樽第二病院は、平成21年に名称を『小樽市立脳・循環器・こころの医療センター』に変更し、地域の皆さまが「どのような病気を治療するところなのか」をより分かりやすい病院名に変えて、再出発します。そして、脳・心臓・血管・精神の専門病院として、質の高い医療を地域に提供するとともに、救急医療を推進していきます。

当院では、各外来から処方された薬はすべて院内で調剤して患者さまにお渡ししています。今年度導入する予定のオーダーリングシステムや調剤手順の改善によって、少しでも患者さまの待ち時間を減らすよう心掛けてまいりたいと思います。また薬剤師は外来だけではなく、入院されている患者さまにも薬の効き目や飲み方の注意点などをご説明しています。お薬について聞きたいことがある時、気軽に薬剤師に声を掛けてくだされば幸いです。



薬局長 竹谷 明子

【市立小樽第二病院 基本理念】

『市民本意の医療を行い、地域に根ざした市民に信頼される病院を目指します』

— 基本方針 —

- 1) 24時間365日、救急医療を積極的に推進します。
- 2) 安全な医療を提供できるように、職員の安全教育を強力に推進します。
- 3) 患者さまの人格、信条を尊重し、患者さまに優しい医療を提供します。



小樽市病院事業管理者に

元 札幌医科大学教授

なみきあきよし

並木昭義 先生が就任

病院事業管理者とは：

公立病院の経営主体は地方自治体ですが、より医療の現場に即した病院経営を行うため、病院事業を地方公営企業として扱い、その責任者として病院事業管理者を市長が任命します。

『地域医療の在り方』

病院事業管理者 並木 昭義

この4月から、小樽市の二つの市立病院の事業管理者として、より良い医療、健全な経営を目指して活動しています。

組織・事業の運営を成功させるには、天地人の格言、すなわち、『天の時』、『地の利』、『人の和』が必要です。

『天の時』は、自分が時代の情勢から必要とされることです。このことに関しては、「3月に大学を定年退職する」、「小樽病院の麻酔科を創設しており実情を知っている」、「病院長の経験がある」、「日本麻酔科学会の理事長として日本の医療に携わっている」、「小樽商大・小樽市との地域医療に関する学際的連携が結ばれその推進役が必要とされる」ことなどが挙げられます。

『地の利』は、「小樽市は札幌市に接し、大学および多くの病院と連携が取りやすいこと」、「小樽市内の麻酔科のほとんどが私の教授時代に開設したものであり、それぞれの病院の状況を知っていること」です。

『人の和』は、「小樽市内の各病院長、医師会の先生方と親交・面識があること」です。「職員は以前に小樽病院に勤務していたことや就任前の新聞報道等で私を知り、温かく迎えてくれていること」、「就任直後の二病院での私の見解・方針について講演により理解されていると思われること」です。従

って、職員を同じ方向・目的に導くことが可能であると確信しています。

市立病院の目的は、公的な立場から市民に安心・安全な医療を提供し、信頼される、快適な病院にしていこうことです。



【略歴】

昭和44年3月札幌医科大学卒業

昭和62年8月札幌医科大学麻酔学講座教授

平成14年3月札幌医科大学医学部附属病院長

平成21年3月札幌医科大学麻酔学講座教授定年退官

平成21年4月小樽市病院事業管理者就任

【学会役職等】

日本麻酔科学会理事長など多くの学会の理事、監事のほか、北海道医師会 常任理事などを歴任。

特に、市立小樽第二病院は脳神経外科、心臓血管外科・外科、循環器内科、精神科、そして麻酔科の診療科を有し、小樽市だけでなく、後志地域の重要な中核病院として、救急医療の中心的役割を担っています。この6月からは、名称を「小樽市立脳・循環器・こころの医療センター」に変更し、より信頼され、親しまれる病院になることが期待されます。



しかし、この病院の診療の質を高めるには、市立小樽病院と統合し、新病院で診療を行うことが必須となっています。

私は、赴任して以来、各方面に積極的にあいさつ回りをし、ご意見を伺いました。その結論は、市立病院を統合・新築して高度・専門医療を行うこと、他の病院・診療所のない診療科の医療を行うこと、市立病院・公的病院・医師会との連携を強め、二次医療を完結できる体制にするということです。そのためには、医療情報のネットワークを確立させ、市内病院の診療状況を把握できる体制整備を行うこと、また三次医療に関しては札幌の病院との連携を密にする必要があります。

総務省は、本年2月に住民の流出を防ぐために定住自立圏構想を公表しました。これを受けて、小樽市が中心となり、余市・仁木・古平・積丹・赤井川の北後志地区の5町村と連携して、医療・福祉・教育・土地利用・産業振興を充実させる「共生ビジョン」の策定に向けた取り組みを始めました。これは、小樽市の発展のため重要であり、大いに活用すべきことです。この地域に信頼される医療体制を築くためにも、新病院の開設が必要となっています。

地域住民に対して、医療・福祉は安心と幸福を、教育は知恵と品格を、土地利用・産業振興は文化と繁栄を与えるものです。地域医療は、ただ行政から与えられるものではなく、地域住民の意志・知恵・実行・責任によって作られるものであるという認識が大切なのです。

患者さま満足度 アンケート調査の結果について

アンケートにご協力いただきありがとうございました。お寄せいただいた貴重なご意見は、今後のサービス向上のために役立てていきたいと考えています。

対象期間・・・平成 20 年 12 月上旬

回答いただいた人数・・・323 人

(内訳) 外来 217 人、入院 106 人

Q 当院に対する満足度はいかがでしょうか？

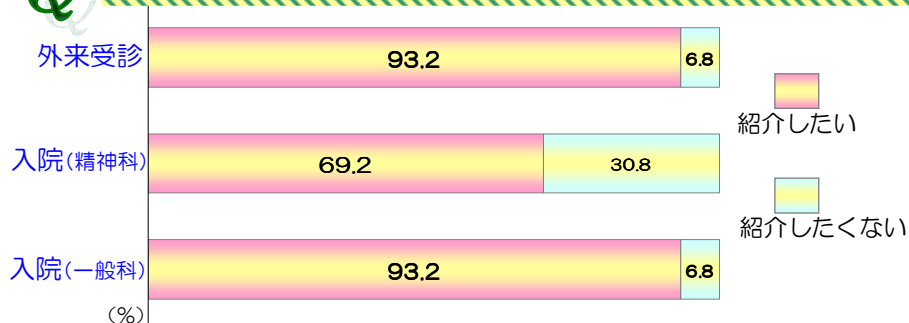
●外来受診中の患者さまにお聞きしました

	満足	普通	不満
医療機器等の設備	47.8	49.5	2.7
整理整頓や清掃状態	40.5	55.5	4.0
プライバシーへの配慮	45.6	52.2	2.2
受付の待ち時間	29.1	61.6	9.4
検査の待ち時間	27.6	67.2	5.2
診察の待ち時間	24.8	62.6	12.6
薬局の待ち時間	18.1	60.8	21.1
会計の待ち時間	29.4	63.7	7.0
医師の満足度 言葉遣いや態度、質問のしやすさ、説明、治療の適切さ	75.0	24.1	0.9
看護師の満足度 言葉遣いや態度、説明の分かりやすさ、手際よさ	68.8	29.3	1.9
技師の満足度 検査、放射線、リハビリの言葉遣い、態度	61.3	37.1	1.6
薬剤師、栄養士、相談員の満足度 言葉遣い、態度、説明の分かりやすさ	57.7	40.7	1.5
事務職員、各科外来受付の満足度 言葉遣い、態度、対応、説明の分かりやすさ	56.6	42.0	1.5

●入院療養中の患者さまにお聞きしました

	満足	普通	不満
医療機器等の設備	61.1	37.8	1.1
整理整頓や清掃状態	54.1	43.9	2.0
ベッド、寝具、ベッド周りの設備	43.9	51.0	5.1
暖房や照明	42.7	47.9	9.4
食事の内容	34.8	53.9	11.2
起床・消灯時間や食事時間	44.4	52.2	3.3
プライバシーへの配慮	46.4	47.4	6.2
医師の満足度 言葉遣いや態度、質問のしやすさ、説明、治療の適切さ	75.5	21.4	3.1
看護師の満足度 言葉遣いや態度、説明の分かりやすさ、手際よさ	77.0	20.0	3.0
技師の満足度 検査、放射線、リハビリの言葉遣い、態度	60.7	35.7	3.6
薬剤師、栄養士、相談員の満足度 言葉遣い、態度、説明の分かりやすさ	61.0	36.4	2.6
事務職員、各科外来受付の満足度 言葉遣い、態度、対応、説明の分かりやすさ	56.2	41.6	2.2

Q お知り合いなどに当院を紹介していただけますか？

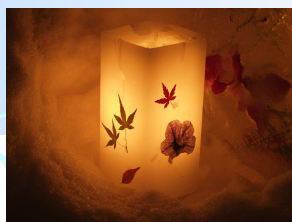
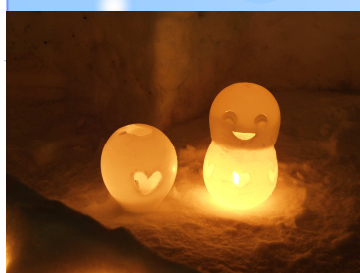


昨年度に続き、少しでも患者さまの「不満を減らす」ことを目標として、職員の意識改革・設備投資に努めてきましたが、昨年と比較し不満が増えた項目はなく、当院を紹介していただける割合も少しだけ増えました。

第二病院では、さらに不満を減らすとともに、「患者さまの満足」を増やせるよう努力してまいります。

「小樽 雪あかり 2009」(第二病院会場)

今年も、第二病院正面玄関前にて職員有志制作による雪像やワックスボウルにキャンドルを灯し、「第二病院 雪あかりの路」を開催しました。



今年のメイン雪像「崖の上のポニョ」



お知らせ

6月から第二病院の名称が変わります！



平成21年6月1日より、当院の名称を「市立小樽第二病院」から『小樽市立 脳・循環器・こころの医療センター』に改称することとなりました。

当院は、小樽・後志地域における脳・循環器・精神疾患治療の専門病院として、地域の皆さんに質の高い医療を提供するとともに、24時間365日の救急医療を担うセンター病院としての特性を持っています。

また病院の経営状況を見ますと、自治体病院としては全国でも数少ない黒字病院の一つです。これまでもさまざまな形で経営改善に取り組んできていますが、さらなる経営改善の一つとして、病院名を『小樽市立 脳・循環器・こころの医療センター』

に改称し、当院の持つ特性をより分かりやすくすることにしました。これを機会に、医師をはじめとした診療体制の充実や職員の意欲を高め、さらに多くの皆さんに当院をご利用いただきたいと考えています。

“脳”は脳神経外科を、“循環器”は循環器内科と心臓血管外科を、“こころ”は精神科を表しています。

皆さんに支えられている自治体病院としての役割を果たしていくとともに、より一層の経営改善を図ってまいりますので、今後ともご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

ウメ モモ サクラと「5月病」

精神神経科医長 笹川 嘉久

北海道にも遅い春が訪れ、ウメ モモ サクラがひとまとめに咲き誇る5月。気温の上昇とともに気分もすっかり晴れやかに、といきたいところですが、誰もが元気に5月を迎えられるわけではありません。いわゆる「5月病」の季節だからです。

4月は新しい出会いや生活の時期です。新しい人たち、新しい環境、そして新しい土地に出会い、それに慣れ適応することは、とても大きなストレスがかかることです。精神科で俗に言う「荷おろしうつ

病」「昇進うつ病」「引越うつ病」といった言葉はこのたまったストレスからうつ病を発症してしまうことを表しています。

では、5月病にならないためにはどうしたらよいのでしょうか？ ごく常識的な事ですが、生活のリズムを崩さず、十分な休息を取ることが大切です。うれしいこと、楽しいことでも疲れやストレスはたまりません。心身の声に耳を傾けて、自分のペースを保ちつつ、この気持ち良い季節を過ごしましょう。



第二病院で安心の健康診断を！

病気を早期に発見し、生活習慣の見直しや適切な治療を行うことにより発病予防・悪化防止をすることは、健康を保つ上でとても重要なことです。

当院では、診療科の専門性を生かした各種健康診断を実施しています。ぜひ、ご利用ください。

●血管ドック

血管の硬さや詰まりの程度、血管年齢などを判定し、総合評価と生活指導を行います。

●心臓ドック

狭心症・心筋梗塞などの心臓病の有無について診断し、総合評価と生活指導を行います。

●肺がん・胸腹部CT検診

当院の高性能CTで短時間での撮影が可能です。せきや痰が気になる方へ。

●メタボリック症候群CT検査

CT検査で内臓脂肪量を正確に判定します。

※ご予約・お問い合わせは第二病院 地域医療連携室までどうぞ。

薬局から

マイバック持参にご協力を

平成21年3月より環境保護と経費節減のため、外来薬お持ち帰り時に、マイバック持参のご協力をお願いしています。

なお、ビニール袋の配布は従来どおり無料で行っておりますので、必要な方は遠慮なくお申し出ください。



市立小樽第二病院 ホームページ

小樽第二

検索

◆受付時間 午前8時40分～/午後1時30分～

◆休診日 土・日曜日、祝日、年末年始

発行：市立小樽第二病院

〒047-0036 小樽市長橋3丁目11番1号

電話(0134)33-4151・ファクス(0134)32-6347